

2016年9月4日

「あなたは右に左に増え広がり…荒れ果てた町々には再び人が住む。」 イザヤ54:3

シオン（エルサレム）への帰還を前にして預言者は祝福を語ります。主は民と仲の好い夫婦のようになりたいのです。

長い間、過疎の町になっていたシオンは、「不妊の女」のようでしたが、「数多く」の子供らで溢れます（→49:21）。「あなたの天幕…を広げ…杭を堅く」して人口増加に備えなければなりません。「喜び歌え…夫に捨てられた女」と、今からの祝福を告げます。（幸せな妻）

離婚まではいかないで別居していたような関係ですが（→50:1）、「恐れるな…あなたの造り主があなたの夫となられる」という時が再び来たのです。「わずかの間…あなたを捨てたが…とこしえの慈しみをもってあなたを憐れむ」と約束し、「再び地上にノアの洪水を起すことはしない」と誓われたように（→創8:21）、「山が移り、丘が揺らぐ」ことがあっても大丈夫だと言われます。（優しい夫）

シオンは復興し、「アンチモン（黒い鉱石）…美しい石」で建物が再建され、「子らは皆、主について教えを受け」、「あなたは恵みの業（口語訳「義」）によって堅く立てられ…どのような武器も…役に立」ちません。（美しく安全な家）

主は私たちと仲の好い夫婦のような関係になることを願われます。そこから祝福が広がるのです（→讃529番）。

2016年9月11日

「主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。呼び求めよ、近くにいますうちに。」 イザヤ55:6

シオンで始まる新しい生活への心備えとして、主は、物質的な豊かさよりも霊的な豊かさを求めよ、と語られます。

バビロンでは成功者も失敗者もいたでしょうが、シオンでは「ああ汝ら、渴ける者…金なき者も…我に聞き従え…さらば…脂（あぶら）をもてその魂を楽しまするを得ん」（交読文40）、と主は招かれます。貧しい生活でも霊的には豊かになれるのです（→使徒3:6）。

主は、ダビデ王への約束（→サムエル下7:12）を忘れず、イスラエルの民を「諸国民への証人…指導者、統治者とし…あなたを知らなかった国は…聖なる神のゆえに…馳せ参じる（喜んで走って来る）」ようにしてくださいます（軍事大国→霊的王国→世界的宣教）。

ここまで主の言葉を忠実に伝えて来た預言者が人々に語りかけます。「見いだしうるとき…近くにいますうち…」というチャンスを逃さないで欲しいのです。「神に逆らう者…悪を行う者」でも「主に立ち帰るならば、豊かに赦してくださる」のです。「赦しの確かさを示さない限り、人は悔い改めに至らない」（カルヴァン）と言われます（→交読文31）。

ここでは積極的に行動することが求められています。「われに来よ」（讃517番）と呼んでくださる声に応じるべきです。

2016年9月18日

「天が地を高く越えているようにわたしの道は、あなたたちの道を…」 イザヤ55:9

いよいよシオンへ出発する時が来て、不安な気持ちになっている人々に主の御言葉が勇気を与えて前進させます。

主は天におられますが、「燕雀（えんじゃく）いづくんぞ鴻鵠（こうこく）の志を知らんや」式の高ぶった態度ではなく、地上の動物や人間を見守っておられ（→ヨブ記38章以下）、私たちの願いも「はるかに越えてかなえることがおできになる方」（エフェソ3:20）です。

主が天から降らせられる「雨も（ヘルモン山の）雪も…大地を潤し…種蒔く人に種を与える」働きをせずに「むなしく天に戻ることはない」ように、「わたしの口から出るわたしの言葉も…使命を必ず果たす」ことなしでは戻らない、と主は力強く約束されます（→40:8）。

これからのシオンへの旅は、「喜び祝いながら出で立ち、平和のうちに導かれて行く」でしょう。人々の賛美の音が響いて、「山と丘は…喜び歌い…茨に代わって糸杉が…ミルトスが生える」ほどです。そういう有様が「主に対する記念」（戦勝記念碑！）となり、「主はご自分の名前が永遠に記念されるために民を守り支えたもう」（カルヴァン）のです。

やがて神の御子が「自分を無にして」（フィリピ2章の上下運動！）地上に来られ、導き手となります（→讃294番）。

2016年9月25日

「わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。」 イザヤ56:7

バビロン捕囚から帰還した人々で混乱したエルサレム（BC538年）も、約20年後には落ち着き、神殿も完成間近ですが、立場の違いを越えて主を礼拝すべきです。

自分を「ユダヤ人」（南王国ユダの後継者）として誇る人たちに対して、主は「正義を守り、恵みの業を行え…安息日を守り…悪事に手をつけない」ような生活をせよ、と戒められます。

帰還者の中には「宦官」もいますが、預言者は彼らに「わたしは枯れ木に過ぎない」と言うな、と語ります。子供は持てなくても、主は彼らに「とこしえの名を与え」られます。「その名は天に記されていて、永遠に亘って生き、栄える」（カルヴァン）でしょう（真の希望！）。

「主のもとに集って来た異邦人」も数多くいますが、彼らも「主に仕え、主の名を愛し…契約を固く守るなら…聖なるわたしの山（神殿のある場所）に導き…受け入れる」、と主は約束されます。それだけでなく、「既に集められた者に、更に加えて集めよう」、というのが主の御心です（→ヨハネ10:16「この囲いに入っていないほかの羊も！」）。

再建される神殿は、「すべての民の祈りの家」であって、誰も排除されてはなりません（→マルコ11:17 主イエスの宮清め！）。教会の姿です（讃194番）。